

たからやを市民活動団体等の活動拠点として再生

市民と行政の協働により、たからや跡地の利用計画を策定した「協働プロジェクトたからや」の提言に基づき、たからや跡地を「(仮称)市民団体等の活動拠点施設」として整備します。

ここを拠点として市民活動等が盛んになり、まちが元気になると考えています。

(仮称)市民団体等の活動拠点施設

1 施設整備の方針

「市民が運営する市民のための市民団体等の活動拠点施設」として位置づけ、「福祉活動」、「市民活動」、「地産地消活動」を推進している団体の活動拠点施設として整備します。

3 運営

「市民が運営する市民のための市民団体等の活動拠点施設」となるよう、NPOに管理運営をお願いします。

NPOが管理運営を行い、利用団体の募集、利用許可、利用料金の収受、利用促進などを行うことにより、多様化する利用者ニーズに効果的、効率的に対応し、利用者サービスの向上が図られます。

4 整備の基本的考え方

たからやの旧店舗の施設を改修して整備します。

周辺は住宅及び商業施設が立地し、利用しやすい場所となっており、また駐車場も確保されていることから、施設改修のみの整備とし、経費の節減を図ります。

NPOとは

営利を目的とせず、社会貢献活動を組織的かつ継続的に行っている民間の団体です。

2 施設の事業

- 福祉活動団体の活動拠点を提供する事業
(住民自ら行う福祉活動の場を提供します。)
- 市民活動団体の活動拠点を提供する事業
(NPO・ボランティア団体の活動の場を提供します。)
- 地産地消推進活動団体の活動拠点を提供する事業
(地域資源を活用する場を提供します。)
- 市民活動等に必要な物資の保管場所を提供する事業



5 今後のスケジュール

4月から6月

名称募集

設計・改修工事

6月 条例制定

指定管理者の公募

7月 指定管理者の議決

施設のオープン

利用団体の募集

6 名称募集

市民活動団体等の拠点にふさわしい名称をおまちしています。様式は自由です。

名称に「こんな施設になってほしい」というご意見をそえて郵送、FAX、メールで提出してください。

提出・問い合わせ先：企画課 〒682-8611 倉吉市葵町722番地

☎22-8161 ☎22-8114

eメール kikaku@city.kurayoshi.tottori.jp

倉吉・関金合併協議会委員を公募

倉吉市が関金町との合併による新市に関する協議をするために設置する倉吉・関金合併協議会の委員について、新市のまちづくりに関する協議に参画したい市民の方を広く一般公募いたします。ぜひ、ご応募ください。

募集委員 2名

委員任期 合併協議会設置の日から解散される日まで

募集対象 平成16年3月31日で満18歳以上の倉吉市内に住所を有する市民で、合併協議会が解散される日まで、平日にも開催される協議会に出席できる方

第1回協議会は4月12日(月)開催予定です。

応募期限 平成16年4月9日(金)正午まで 必着

応募方法 市町村合併や新市のまちづくりに関する意見等を概ね1,000字程度(原稿用紙2枚半程度)のレ

ポートにまとめ、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、その他日常活動している団体名、専門知識等があればそれらを明記して、倉吉市企画課へ直接お持ちいただくか、郵便、eメール、FAXにより応募してください。

土・日の受付は宿直室で行います。

応募書類等は返却できませんので、ご了承ください。

選考方法 提出のあったレポート等をもとに選考します。

発表方法 採用者及び不採用者には文書で通知させていただきます。

応募先及び問い合わせ先：倉吉市役所企画部企画課

〒682-8611倉吉市葵町722番地

☎22-8161 ☎22-8144

eメール kikaku@city.kurayoshi.tottori.jp

倉吉市役所がISO14001の認証を取得

21世紀は環境の世紀と呼ばれています。

人類が地球上で生存するためには、地球温暖化をはじめ様々な環境問題に対処していくことが必用で、克服すべき大きな課題となっています。



登録証明書(左)と登録目録(右)

現在、私たちが直面しているこのような環境問題が、これまで営んできた私たちの生活様式や経済社会活動に起因していることは今や世界の共通認識となっています。

物を大量に生産し、大量に消費し、大量に廃棄してきたこれまでの経済社会活動は、環境に取り返しのつかない影

響を及ぼすだけでなく、資源やエネルギーの資源枯渇の懸念も生じています。

このような課題を克服するため組織が総合的に取り組む方法として制定されたのがISO14001です。

倉吉市は自然と共生し、環境への負荷の少ない循環を基調とした持続的発展が可能な「環境モデル都市」の実現のため、自らの環境保全活動への取組みの証としてISO14001の認証を平成16年3月に取得し、事務事業に伴う環境負荷の低減と良好な環境の創造に努めます。

倉吉市は、環境負荷の低減と良好な環境を創造するため次のような活動を行なっています。

電気使用量削減 ガソリン及び軽油使用量削減 灯油使用量削減 LPガス使用量削減 水道使用量削減 PPC用紙使用量削減 廃棄物の削減 グリーン購入の推進 リサイクルの推進 緑を守り育てる事業 環境パトロール ごみゼロ運動 川をきれいにする運動 森林整備事業 公園緑地の管理

4月6日から15日までの10日間 春の全国交通安全運動

運動の基本 子供と高齢者の交通事故防止

重点推進事項 1 自転車の安全利用の推進

2 シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

【スローガン】まだいける まだ大丈夫は もう危険

運転者の皆さん、入学・入園の時期となります。小学校や保育園等の周辺では、子供に配慮した運転をお願いします。また、4月1日より鳥取県下で交通マナーアップ運動が展開されます。交通事故のない安全な倉吉市を目指して、市民一人ひとりが交通ルール・マナーを守りましょう。

自転車利用者の皆さん、日ごろからブレーキやライト等の点検・整備に努め、無理な運転や2人乗り、並列走行など危険な行為は絶対しないようにしましょう。

「面倒だから」「すぐ近くだから」という気持ちを捨て、車に乗るときはシートベルトを、幼児・児童を乗せるときはチャイルドシートを正しく着用しましょう。

夜間外出のときには、明るい服装で、反射材用品を取り付けるなど、運転者からよく見えるようこころがけましょう。薄暮の時間帯(今の時期ですと午後6時頃)には、歩行者及び自転車からよく見えるよう、車の前照灯を点灯しましょう。

問い合わせ先：総務課(☎22-8162)

トマンナヨくらよし また会いましょう

国際交流員として活躍した韓国光州市出身の宋沂憲（ソン・ギホン）さんが任期を終えました。パークスクエアがオープンした平成13年4月に着任して以来3年間、精力的に交流事業を行ってきました。中でも韓国語講座は人気で、多くの市民が韓国語を学び、韓国との交流を深めました。また、市報コラム「チェミろい韓国」を執筆し韓国の最新情報や伝統的行事を掲載するなど、話題を提供してきました。このほど宋さんは、本市の国際交流事業の任務を終え、多くの市民や韓国語講座受講生に惜しまれながら帰国の途に就きました。



3年間の活動を市長に報告する宋沂憲交流員

五風十雨

倉吉市長 長谷川稔



© 谷口ジロー『遙かな町へ』小学館

出産手当の存続などを議決した三月市議会が終わりました。「地財ショック」というかつてない地方交付税や補助金削減などで地域にも市民活動にも変化や影響が起きていることと思います。しかし、これもサービスの決定を身近な所で行う地域主権への第一歩とも考えたいと思います。先日、志木市より講演にみえた穂坂市長は市民は行政のパートナーであると位置付けておられました。また、産業廃棄物処分場問題も多くの論議があり、その中で施設の

集中は避け、分散することで各々の地域が責任を果たすこと。また処分場をはじめ、し尿処理やごみ処理は生活に必要な不可欠な施設であり、安易に迷惑施設と呼ぶのを改めるべきとの指摘も受けました。

ともあれ、場所が青少年の森構想の市有地であったことから、経過を振り返り、今後を考える良い機会でもありました。その時、頭をよぎったのがサイレントマジョリティの存在でした。発言することの少ない多くの市民の存在であります。民主主義はやはり参加していただき、声を出していただく積極性とその声を拾うていねいな取り組みが大切と感じました。ハルウララから連戦連敗のもつ意味はひたすらに取り組むなかで、新たな工夫と努力を惜しまないことだと言いつけています。

この間、頂いた絵手紙に「つまずいたっていいじゃないか人間だもの」とありました。新たな人生の旅立ちに向かう若者に前途あれと祈ります。

人権尊重都市宣言のまち倉吉

部落解放
シリーズ 600

「育てる」

二千年前のローマの遺跡が発掘された時、「いまどきの若い者は…」という落書きが発見されたそうです。言葉や表現が人心に与える影響と「育てる」という目的を大切にすべきです。



「いまどきの子どもは根性がない、勤めもすぐに辞めてしまつ、こんな話を聞いた後で、高卒者の離職割合が一年目二割、二年目四割、五年目五割（昨年度の集計）という数字を見せられると、なるほど」と思いますが、人によっては、「ゲームや携帯ばかりしているから、人とのコミュニケーション能力に欠ける」等と、批判するかも知れません。

過去二十年の高卒者離職率を集計してみると、多少の変動はあるもののほぼ同じ数値が続いています。ちなみに、私は高卒後二十一年目ですが、ゲームはほとんどしないし、携帯も持っていないません。しかし根性はないということになりそうです。それ以前のデータがないので、先輩の根性がどれくらいかはわかりません。五年程前、「十四才が危ない」というメディアのキャンペーンがありました。神戸の少年殺人事件があった時、連日のように「いまどきの子どもは人の痛みがわからず、何をしてもかすかわからない」という評論が出まわりました。ゲームや携帯の影響だという人もいました。

差別のない明るい社会へ

少年による殺人事件は、年間百件ぐらいで推移しており、メディアがその気になれば、三日に一回は少年による殺人事件を報道できます。また、取調べ中の少年が刺激的な言葉を述べれば、猟奇事件として報道し、「いまどきの子ども」キャンペーンを復活できます。長期的に見て、事件数は減少しているにもかかわらず、それはいつでも可能なのです。

言葉や表現には、人心を誘導する作用があります。「いまどきの若い者は…」と、マイナスイメージを思考させるのではなく、若者の「育ち」に期待したり、支援していく言葉や表現が定着していく取り組みが大切だと思います。

私自身が受けた子育てと、私の子育てはかなり違つと実感しています。しかし、私と私の子どもとの間に絶望的な断絶があるとは思いません。

思い込みによる批判ではなく、言葉や態度が人心に与える影響を考え、「育てる」という目的をしつかり持ち、手法は自由でありたいと願いながら子育てをしています。

（部落解放・人権啓発資料作成委員会 牧田）